

## 足助中学校の部活動

平成26年度現在、活動中の部活動は次のとおりです。男子バスケットボール、女子バレーボール、男子ソフトテニス、男女卓球、男女弓道、男子剣道、ブラスバンド、ACC（あすけ・カルチャー・クラブ）です。本年度の夏の大会の成績は、ブラスバンド部が西三河北地区で金賞を受賞し、地区代表として県大会に出場しました。また、卓球女子団体が西三河大会3位、男子バスケットボール部が豊田・みよし地区大会3位の成績でした。練習時間が制限されるなか、どの部活動も健闘しています。

足助中学校 校長 藤嶋力央



## 足助の秋のイベント



みんなで  
出かけよう!!

### ☆2014お宝体験隊(足助の町並み商店街)

9月21日(日) 9:30~  
テーマ「昔ながらの“遊び”や“食文化”を体験しよう」  
【内容】かるた、竹とんぼ、リム回し、五平餅、ちまきなど。要事前申込(先着順)  
問い合わせは足助商工会(62-0480)

### ☆足助ゴエンナーレ(足助町本町寿×家)

10月4日(土)・5日(日)・11日(土)  
12日(日)・13日(月) 10:00~  
元料亭「寿×家」を舞台にしたご縁でつながるアートプロジェクト。さまざまなワークショップ体験や美術家の芸術作品をみることができます。

### ☆足助まつり

試楽祭10月11日(土)  
本学祭10月12日(日)  
山車4台の曳廻しや鉄砲隊の轟音が響き渡るさまなど魅力満載!

### ☆山里あすけ体育祭(足助グラウンド)

10月19日(日) 8:30~  
足助の恒例行事!今年は第10回記念大会!  
青空の下、家族・友人・地域の仲間みんなでレク・バレーボールを楽しみましょう!!  
要事前申込。問い合わせは足助スポーツクラブ事務局 志賀(090-3950-4627)

### ☆あすけ夢里まつり(三州足助屋敷前広場)

10月19日(日) 10:00~  
自然豊かな足助に現れた一日だけの夢の里  
~夢里収穫祭~

### ☆足助地区ふれあいまつり同時開催 商工まつりニコニコフェスタ(足助交流館周辺)

10月26日(日) 9:00~  
足助地区活動団体による芸能発表、作品展示、バザー、イベントなど。商工まつりでは、足助小学校ブラスバンドパレード、青空市、もち投げ、おたのしみ抽選会などを開催。

### ☆香嵐溪もみじまつり(香嵐溪広場など)

11月1日(土)~11月30日(日)  
日没~午後9時まで飯盛山のもみじをライトアップ。昼の香嵐溪とは表情を変えた幻想的な雰囲気を楽しめます。

### ☆ふれあいフェスタ冷田(冷田小学校)

11月16日(日) 8:30~  
恒例の冷田ウォーク!今回は栃本町や桑原田町などを巡るコースをウォーキング。豚汁・つきたて餅・おしるこなどを用意。  
参加費は500円。

## あすけ通信

あすけ通信ではBlog・Twitter・Facebookもやっています!!  
ぜひ一度ご覧になってください!!  
足助の魅力が満載ですよ☆ 「あすけ通信」で検索!!

発行 あすけ通信編集委員会事務局  
豊田市役所 足助支所  
(豊田市足助町宮ノ後26-2)  
電話 0565-62-0601  
Email asuketsushin@city.toyota.aichi.jp

## 一足助にUターンをして一

2008年3月、私は妻、2人の子どもと、西尾市の会社の社宅から足助の実家にUターンしました。なぜこの年だったのかというと、上の子どもが小学校へ、下の子どもがこども園に入園するタイミングでちょうどいいと思ったからです。途中から転校することになると子どもがかわいそうだと思います。というのは、私自身が経験をしているからです。



国谷町  
三木 徹さんとご家族

私は岡崎で生まれ、父の働いていた会社の社宅で暮らしていましたが、兄が小4、私が小3の夏休みに祖父の住んでいる足助に来ました。当時私のクラスは11人で、人数も少ないせいか馴染むのに苦労をしました。私の子ども達は二人とも女の子だからかどうかかわかりませんが、新しい生活に少しずつですが、何事もなくうまく慣れたことにとってもほっとしています。

足助に帰ってきて6年、少年時代の私では見えなかったことが、親になり、またこの足助に戻ってきて新たに見え、感じたことがあります。まず、子どもを見守っているのは、親だけでなく地域全体で見守り育てているということ。PTAの仕事や地域の行事などを通して強く感じました。西尾にいた時に隣に住んでいる人さえわからなかったことを思うと、今、本当にありがたい事だと思っています。

また、私の住んでいる国谷町では、「煙」<sup>カミ</sup>という名で地域活性化のためお雛子の演奏を、秋祭りや地域のイベント等で行っており、毎月第1、3土曜日に練習をしています。国谷町だけではなく、他の地域の人々にも演奏を聴いてもらうことで、成功させたいという



子どもが通う冷田小学校

思いが強くなり、仲間の団結も固まりとてもやりがいがあることだと思います。

6月下旬頃、家の近くの田んぼに蛍が出ます。車のハザードランプを点滅させるとたくさん寄ってきます。私が子どもの頃は見た記憶がありませんでしたが、大人になり、故郷に戻って毎年蛍を見に行くと、子どもでなくても目を輝かせて、「ここにも、あそこにもいる」と夢中になれる。そんな夢中になれる環境にいる自分はとても幸せでありたいことだと感じました。

大人になって故郷に戻ってきて、懐かしさと新たな発見がありおもしろいです。私は今あらためて故郷に戻ってきて良かったと実感しています。

## お品書き

- 足助から—  
足助の花火
- あすけなつバケ開催!—  
「なつやすみわくわくワークショップ」が開催されました
- あすっこ紹介—  
今回はUターンのあすっこ 村松和也さんを紹介!
- あすけチャレンジWEEK—  
足助中学校の生徒が職場体験を通じて将来の足助について記事を作りました!
- 足助中学校校長先生より—  
足助中学校の部活動
- 足助にUターンをして—  
国谷町 三木徹さんのUターンのお話
- 足助の秋のイベント—  
足助は秋もイベント盛り沢山!!

## 足助とつながる情報誌

# あすけ通信

第十号  
2014

# あすけなつバケ開催!



8月13日(水)・14日(木)、足助町本町の田口家・寿家<sup>スミヤク</sup>でなつやすみわくわくワークショップ「針金オバケをつくろう!」「消しゴムはんこをつくろう!」「アジアンテイストな蓮の折り花を作りましょう!」が行われ、親子連れで賑わいました。子ども達が針金をくねくね曲げて、好きなオバケの形を作り上げたり、消しゴムはんこを作ってエコバッグにスタンプを押し、世界でただ一つのマイバッグを作り上げるなど、足助で夏休みの楽しいひと時を過ごしていました。

— ここから —

足助の花火は 心地いい  
橋から見たり 鳥居越しに眺めたり  
足助の友達と 賑やかに過ごしたり  
家族団圓の場になったり  
町と花火の大きさが  
ちょうどよいんよ

2014年8月  
大夕賀峠のシシウドの花

## Uターン編

# あすっこ紹介

足助の八百屋 いとや

八人目 村松 和也さん (旧姓: 高山) 41歳 (足助自治区 在住)



足助生まれ。青木小学校、猿投台中学校を経て三好高校バスケ部へ。卒業後トヨタ車体へ入社、3年間バスケ部で活躍した。22歳からスノボ三昧の暮らし。冬は新潟、夏は海外のスキー場で過ごした。28歳の時、スノボの実力が認められ、ニュージーランドのオタゴ地方ワナカにあるカードローナ・アルパイン・リゾートのインストラクター部日本人担当として採用された。迷うことのない破格のオファーだった。翌シーズンの契約を済ませ、拠点をワナカに移す思いを胸に帰国。準備を進める最中にまさかの肩の粉碎骨折。やっと軌道に乗ったスノボの世界から身を引かざるを得なくなってしまった。回復後、縁あって東京の人材派遣の会社で働いた。30歳、久しぶりの里帰り<sup>サトノ</sup>で父親からいとや(親族経営の足助の老舗の八百屋さん)をしめることを告げられた。高速をとばし東京に着くまでに、足助に戻って八百屋になることを決めていた。それからすぐに足助に戻り、父親の八百屋仕事を手伝い始めた。

37歳、母方の祖母が倒れた。急変の日、「八百屋がんばれ…」手を握る和也さんに声をしばった。和也さんに早く八百屋をやめるように言い続けた祖母の本心を知った。これまで思い通りに生きてこられたことへの感謝と、これからも八百屋をがんばると、伝えられないまま祖母は逝ってしまった。

たまたま香嵐溪の時期に自分一人で野菜や果物をていねいに売ったら快感だった。それをきっかけ

に39歳で田町で毎月開催されているいなり市にリヤカーでデビュー。スノボの筋トレを兼ねていても最初はやはり恥ずかしかった。めずらしさも手伝い完売が続く姿は中日新聞に取り上げられた。

そんな頃、町中の八百屋がまた1軒撤退。買い物をするところがなくなったおばあさんが雪の中を歩いて来てくれるのがかわいそうでした。衝動にかられ、顔づてに田町で店を借り、3日で片付け改装。店の棚など備品はすべて、新聞記事を見た知り合いから提供され、なんと店が出来上がってしまった。足助の人も有形無形の協力を惜しまずしてくれた。ていねいにやりたい。1個を選んであげたい。思いが叶った。

「スイカ切るだったら声かけて」と4人のお客さんから声がかかったら、スイカに包丁を入れ1/4に切り分ける。鮮度を保ったままお客さんに渡すためだ。この先人口が減り続けても、こんな店が足助の町中に3つあったらと、和也さんは考えている。

「やっとなる?」とお店をのぞくお客さんに「やってませ〜ん♪」カゴをいっぱいにしたお客さんには「なんだん戦争でもはじまるだかん。」品切れの時は「大根は売れちゃったでカボチャにしとくん。」たわやかであたたかと思うままで。いとやさんはそんなお店。



# ~あすけチャレンジWEEK~

足助の各地区の人口が一目でわかる地図を作りました! 思っていたより地区によって差がありました!!



足助中学校2年生 山崎 あやめさん(左)  
高木 篤くん(右)

私たちは、5日間のあすけチャレンジWEEK(職場体験)で、支所の方と一緒に「里山くらし体験館すげの里」・「いこいの村あいち」と「神越溪谷」の見学をしました。そこで、自分たちも知らない足助の魅力に気づきました。「神越溪谷」は、自然の木を使ったすばらしい工房(鼎工房<sup>かなえ</sup>)がありました。新盛にある「里山くらし体験館すげの里」に行ったとき、足助に興味をもって住もうとしてくださる方に向けて、山里のよさを生かした積極的な取組について知ることができました。これは、足助の過疎化防止とともに、町の活性化を図るために若い人を求めての対策として、必要不可欠ではないかと考えました。

私たちは人を足助に呼び込む手段を考えました。それは交通網の整備や宿泊施設の設置、イベントの活性化などです。また、「いこいの村あいち」のように使われていない施設の現状にも目を向けて、解決策を考えていく必要があると思いました。そのためには、今後の町の活性化対策ができるような、地区ごとの人口の様子が見える地図を作成していくことが必要だと気づき、その作成に力を入れました。

このように足助を活性化するために、私たち中学生も地域の活動に率先して参加し、もっと地域のよさを知り、地域を盛り上げていきたいです。